

【概要】

平成28年度 東京都自立支援協議会第一回本会議 全体会②記録

沖倉会長	それぞれグループで議論いただいたことをご報告いただきたい。
高沢 副会長	<p>1グループの報告について。</p> <ul style="list-style-type: none">・相談事業所は小さなところが多く、事業所で人を育てるのは大変。・相談員4.5人で160ケースを持ち、これ以上持ったらやっていけない。・精神病院があったり、基幹センターの下に地域センターがあったり、地域特性がある。・スキルを上げるため相談支援専門員が主体的に勉強会をはじめ、大学の教授を呼ぶなどして学んでいる。地域特性があるので、都内をいくつかのブロックに分けて行って行くのが良い。・稲城市で、サービス提供事業所の利用者の計画相談は、その法人ではなく他の法人の事業所が作る、といったような工夫を行っている。・必要な制度、知識が多くあり、新人が学ぶのは大変だが、基本はOJTにある。・ひとり事業所は作った計画がこれで良いのかなど第三者的な目がないので不安とのこと。事業所の勉強会などでつながっていくことが大切。・最近、重複障害や、障害に加え貧困等障害以外の問題を抱えた、多問題家族が増えてきている。・どのような人を育てていくかのポイントについては、新人は半年間職員について、毎日ノートをつけ、先輩職員がチェックしている。同じ法人の通所や入所の体験も研修の体系に入れていく。一緒に連れて、面接、事業所に行くこともよい方法。・子どものセルフプランが多く、放課後等デイサービスが急増している中で、これからの子供のことが心配。・地域によって特性もあるが、小さな事業所が多い。事業所が集まって広域で学ぶことも必要。・新人の相談員が2回目の面接で長期目標を聞いてくる、その人の人生を語ってしまう人もいるがそれはおかしい。人の人生について機微に触れる、さじ加減とか、それが分かる計画相談にしてほしいとの意見があった。
海老原 副会長	<p>2グループの報告について。</p> <ul style="list-style-type: none">・相談支援専門員同士、事業所同士で連絡会を開いて、情報交換、情報提供をし合う場所があればよい。・行政は上がってきた計画について検討し、おかしければ相談支援事業所に返しているが、相談支援事業所の関係の中で試行錯誤する事例がある。・セルフが多いところは、計画にモニタリングが入らないため、相談支援専門員がこれで良いのかと考える機会がない。・基幹相談支援センターは研修の企画や困難事例の相談、事業所間の横の連携を作る役割があるが、横の連携については立ち上げてすぐできることではなく、みな試行錯誤している。

	<ul style="list-style-type: none"> ・行政主導になってしまい、主体的に相談支援専門員がこういうことをやっていこうと考えられるのかというこの疑問があり、課題も出てきた。 ・杉並区では初任者研修も行っている。障害の問題だけでなく、65歳になると介護保険もあり、ケアマネにも初任者研修を受けてもらっている。 <p>計画を作っていくにあたり、正しい計画を作るためのポイントを伝えていく研修を行い、立ち上げたばかりの相談支援事業所のサポートをしていく研修をしている。行政が主体で行われているので、これからは民間主体でやっていきたいと思っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通に上がってきた意見として、横のつながりを強化していくこと。相談支援専門員同士のつながり、相談支援事業所同士のつながり、事業所と行政とのつながり。 ・相談支援専門員は業務に追われ、情報収集の余裕がない。地域の当事者、親の団体の方がよく情報を知っていて、聞いてくれればよいのにと言われたことがある。 ・地域で生活していく人と事業所とのつながり、介護保険と障害のつながり、医師、保健師、大学教授等、専門職と相談支援専門員とのつながりなど、いろいろなつながりが大事。 ・障害サービスの中だけでつながっていても意味がない、地域の中で生活するということは金融機関、成年後見、医療、商店街など、そのような人たちとどのようにつながっていくか、障害について分かってもらわないと生活の充実に結びつかない、地域で障害に関係のない資源にどうつなげていくかということが大切。 ・専門員の技量を伸ばしていく、基幹相談支援センターはそれらをコーディネートしていける力を持つことが重要。
<p>沖倉会長</p>	<p>今回の議論から、交流会、セミナーのテーマ設定、話題提供者をこれから検討していくこととする。研修そのものの内容、研修をどのように運営していくか等には、「地域おける関係者の連携」が欠かせないということが出た。それは障害領域だけでなく、多問題、他領域とどのように組んでいくかについては、両グループから出た。</p> <p>相談支援専門員の仕事や基幹相談センターの運営について、核やエッセンスは作れても、マニュアル化することは難しく、地域特性やOJTが必要になってきたりする。マニュアルを読んだだけで、人が作れるわけではないことに皆さんが気付いている。マニュアルに書かれたことをどうやって実践していけばよいのかが今後の課題である。</p> <p>実践している方、当事者の方と一緒に話し合い、テーマ設定が出来たら良いと思う。</p> <p>研修や職員を育てる等をテーマにすると、当事者の方の発言しにくくなるが、当事者の方にはどんな人を求めるのかを話してもらい、それを中心に据えて議論しなければならないと考える。</p> <p>次回本会議は年度の終わりの開催となる。その間事務局から連絡させていただくので、皆様からのご意見等があれば、事務局に寄せていただきたい。</p>
<p>小林課長</p>	<p>本日の議論は整理し、後日報告を行う。</p>